



トピックス

2023年6月5日

世界景気の現状と予想：中国は失速傾向、米欧は底堅い

経済予想

経済予想は簡単でなく、描いたシナリオはしばしば修正を迫られます。現在、金融市場参加者が再考し始めているのは、米欧景気が悪化する中、中国景気の力強い回復が世界経済を支える、とのシナリオです。

中国では、昨年終盤、コロナウイルスの感染抑止策が緩和されました。これに伴い、今年は中国の景気回復が鮮明になる、と年初頃には多くの方が予想しました。一方、米国やユーロ圏については、これまでの利上げの影響やインフレなどにより、今年は景気後退に陥る、と予想する人が少なくありませんでした。

中国景気

たしかに、中国では今年序盤、経済正常化の動きによる景気回復が鮮明となりました。実際、1-3月期の実質国内総生産（GDP）は前期比年率で約9%増と、個人消費の主導で高い成長率を記録しました。

4月以降もプラス成長が見込まれますが、個人消費の伸びは、勢いがやや鈍っている模様です。また、輸出の伸び悩みなどから、工業生産は緩慢な伸びにとどまっています。それらを受け、製造業・非製造業とも、企業の景況感は低下しつつあります（図表1）。中国景気のリバウンドは、早くも失速しているようです。

米欧景気

一方、米欧経済は、今年中に深いリセッション（景気後退）に陥る可能性は低下した、と言えます。雇用の底堅さなどにより、米国やユーロ圏における実質GDPの継続的な落ち込みは避けられそうなのです。

また米国やユーロ圏では、エネルギー価格の下落などで、インフレが徐々に鈍化しそうです。これは底堅い雇用とともに、個人消費を下支えするはずですが、さらにインフレの鈍化で、米国、ユーロ圏とも、金融引締め姿勢が和らぐと考えられます。近い将来に利上げが停止すれば、米欧の景気を支援するでしょう。

世界景気

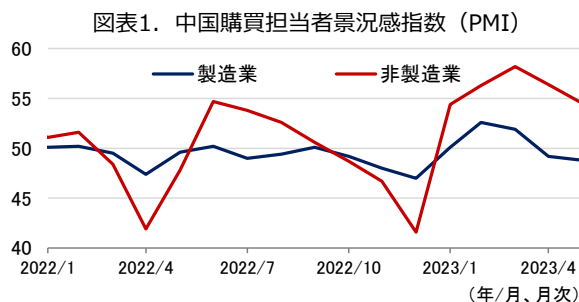
以上のように、中国経済は市場で予想されていたほどには強くない模様である一方、米欧は悲観論に反し深い景気後退を回避できそうです。こうした中、世界経済は今後、どのように推移するのでしょうか？

世界景気は緩やかな拡大を続けるだろう、と予想されます。中国景気が失速しつつあるとはいえ、極端な景気悪化を阻止すべく、中国政府・中央銀行は柔軟に景気対策を今後検討するはずですが、また、米欧で利上げが停止すれば、米欧景気の拡大を促し、かつ、それは中国から米欧への輸出を後押しするでしょう。

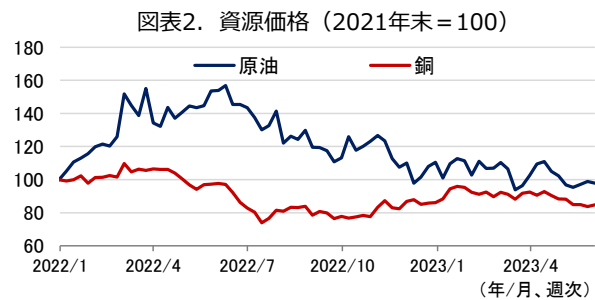
資源価格

また、中国の景気減速観測などから、原油や銅などといった資源の価格が足元軟調となっています（図表2）。中国はそれらに関し世界最大の輸入国であり、中国景気の減速は、世界的な資源需要を抑えます。

資源価格の軟調が続けば、世界中のインフレが抑制されます。これらは米欧の利上げ停止などを通じて、世界経済の大きな好材料となり得ます。ロシア・ウクライナ戦争やコロナウイルスなど、予想困難なことは多数残存していますが、世界景気の緩やかな拡大という基本見通しは、当面、微修正で済みそうです。



(注)非製造業はサービス業および建設業。2023年5月まで
(出所)中国国家统计局、Bloombergよりデータを取得し、しんきん投信作成



(注)原油はブレント先物、銅はロンドン市場先物。2023年6月2日まで
(出所)Bloombergよりデータを取得し、しんきん投信作成

(チーフエコノミスト 辻 佳人)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。